

カトリック河原町教会だより 2017年6月新聖堂建立50周年記念号



「教会はキリストの体であり、
すべてにおいて
すべてを満たしている方の
満ちておられる場です」

エフェソの信徒への手紙
1・23



京都教区司教座聖堂献堂記念日の変更の趣意書

京都教区司教 パウロ 大塚 喜直

今年2017年、聖フランシスコ・ザビエル司教座聖堂献堂50年目を迎え、6月18日(日)キリストの聖体の祭日のミサで献堂記念感謝の祈りをささげます。この節目の年に、わたしは、京都教区司教座聖堂の献堂記念日を、現行の11月23日から、12月3日に変更したいと思います。

【聖堂の献堂記念】

聖堂とは、目に見える建物ですが、キリストがこの地上に建てられた教会の特に優れた「しるし」であり、天にある教会の「かたどり」でもあります。キリストは、ご自分の死と復活を通して、新しい契約の真の完全な神殿となられました。教会は、父と子と聖霊によって、一つの聖なる民となった神の神殿です。キリスト信者は洗礼の秘跡を通して、一人一人も聖霊の神殿となりました。

聖堂は、神の民が集い、聖なる務めを果たすことを唯一の目的とする建物です。その献堂を記念することは、神の民の聖なる務めを思い起こし、その務めをふさわしく果たしているかを確認する大切な機会です。

【聖堂献堂の経緯】

現聖堂は、1890年(明治23年)に献堂された旧聖堂を財団法人『明治村』(愛知県犬山市)に寄贈移築するにあたり、1967年に建立されました。『河原町教会宣教百年の歩み』によると、同年1967年6月17日に「旧聖堂とお別れ」、18日に「新聖堂へ移る」とあります。

新聖堂の建築計画にあったステンドグラスは、翌1968年11月24日に除幕式があり、パイプオルガンはさらに4年後の1972年3月に設置されました。そして、ロイヤルホテルが1972年10月に完成したので、同年11月23日によく新聖堂祝聖式が行われました。以来、この11月23日が京都教区の司教座聖堂献堂記念日となっています。

【聖堂名の聖フランシスコ・ザビエルの祝日の祝い方】

現聖堂は、旧聖堂と同じく、聖フランシスコ・ザビエルの名で献堂されています。教会堂の名称である聖人の記念日は、河原町教会だけでなく、司教座聖堂として京都教区にとっても大切な日です。しかし、残念ながら、聖フランシスコ・ザビエルの祝日12月3日が待降節中にあることもあって、特別な形でミサをささげていません。

しかし聖フランシスコ・ザビエルは日本のカトリック教会にとって重要な聖人であり、日本司教団は2016年から、12月3日の祝日名称の「聖フランシスコ・ザビエル司祭」に、「日本宣教の保護者」を冠する祝日名にしました。

【司教座聖堂の献堂記念日】

典礼規則では、地方教会、すなわち司教区の重要性と品位を明らかにするため、司教座聖堂の献堂記念日を、司教座聖堂においては「祭日」として、教区内の他の教会堂や聖堂においては「祝日」として祝うように定められています。しかし、その献堂当日に祝うことが困難である場合には、最も近い日を献堂記念日として指定することができます。献堂記念日に司教は司教座聖堂において、できる限り多くの信者の参加を得て、感謝の祭儀を共同司式することが望まれています(カトリック儀式書 献堂式 諸言26)。

以上のような経緯と理由で、わたしは京都司教として、京都教区司教座聖堂の献堂記念が聖フランシスコ・ザビエルの祝日に祝われるよう、「12月3日」に変更したいと思います。そして、原則、司教がこの記念日のミサを司式したいと思います。

なお、この変更は2018年の暦から正式に記載されるように、今年度中に変更を申請したいと思っております。以上、ご理解をよろしくお願いします。
(2017年5月8日)

～キリスト教の伝来から～辿ってみる河原町教会の歴史

- 1543年 ポルトガル人種子島に上陸
- 1549年 1.フランシスコ・ザビエルら8/15に鹿児島に上陸しキリスト教の布教を開始。ザビエルは九州で布教の後1550年に入洛(11日間)天皇に会えず離日
- 1551年 ザビエル、インドに向かい翌年中国で帰天
- 1552年 2.トレイスの来日 [1553年高山右近生まれる]
- 1556年 宣教師3.ガスパル・ヴィレラ来日。
- 1560年 将軍足利義輝に会見、宣教許可を得て四条に教会を開設した
- 1563年 宣教師4.ロイス・フロイス来日
松永久秀によってバテレン追放の布告が出される
- 1565年 最初の教会が長崎に建立
- 1576年 京都布教史上重要な南蛮寺(天主堂)が建立
- 1579年 イエズス会宣教師5.ヴァリニャーノ来日
- 1580年 安土セミナリオ開校。6.オルガンティーノ校長
- 1582年 九州のキリストン大名の名代として少年使節団をローマに派遣(3年後教皇に謁見) [本能寺の変]
- 1587年 豊富秀吉「宣教師追放令」を発布、右近も追放
- 1591年 ヴァリニャーノ、少年使節とともに秀吉に謁見
- 1593年 7.ペトロ・バプティスタ来日、秀吉に謁見
- 1596年 サン・フェリペ号事件。キリストン弾圧激しくなる
- 1597年 2/5長崎西坂で二十六聖人殉教
- 1614年 徳川家康、キリストン禁教令を発布。京都と長崎の諸教会が破壊。高山右近フィリピンに追放される
- 1619年 京都六条河原で信徒52名が殉教(元和の大殉教)
- 1622年 長崎で宣教師と信徒55名殉教(元和の大殉教)
- 1623年 江戸の大殉教50名(元和の大殉教)
- 1626年 長崎でイエズス会管区長殉教。「踏み絵」開始
- 1633年 鎮国令
- 1637年 島原の乱

～潜伏キリストン時代～

- 1775年 [アメリカ独立戦争～1783年まで]
- 1789年 [フランス革命]
- 1790年 浦上潜伏キリストン捕縛(浦上一番崩れ)
- 1842年 長崎西坂キリストン五島へ移住(浦上二番崩れ)
- 1853年 [ペリー来航]
- 1854年 鎮国令解除 [日米和親条約締結]
- 1856年 浦上信徒80人捕縛(浦上三番崩れ)
- 1862年 日本二十六聖人列聖される
- 1865年 ピウス6世日本の迫害を思い「都の聖母」を祝別。
大浦天主堂完成。3/17 8.プチジャン神父が浦上の信徒発見



1.フランシスコ・ザビエル (1506～1552)
スペイン貴族領主出身。イグナチオ・ロヨラらと共にイエズス会を創設した一人。インドのゴアに派遣された後、1549年念願であった日本のキリスト教布教ため上陸、九州で布教。1550年に入洛し都の宣教に熱い祈りを抱きつつ、荒廃した都の宣教を願いながら中国への途上、上川島で帰天。

2.コスメ・デ・トレイス (1510～1570)

スペイン出身。ザビエルと共に来日したイエズス会日本布教区長。主に九州、山口など日本各地で18年間宣教した。「適応主義」(宣教師が現地の文化に根ざして生きること)を目指し日本におけるキリスト教布教の成功をもたらした。ザビエルから託された京都布教の約束を果たすべく、ガスパル・ヴィレラ神父らを派遣。1570年天草で帰天。

3.ガスパル・ヴィレラ (1525～1572)

イエズス会士。1556年に九州に上陸し日本での布教開始。平戸で約1500人に洗礼を受けた。1559年入洛。オルガンティーノ、フロイスらと共に1576年に南蛮寺(聖堂)を建て都の宣教に大きな役割を果たし、京都追放後は畿内を中心で活躍。右近父子にも洗礼を受けた。1570年インドに渡り、1572年ゴアで帰天。



4.ルイス・フロイス (1532～1597)

里斯ボンに生まれる。イエズス会宣教師として1563年来日。1565年入洛、ヴィレラやロレイソと布教。堺での宣教の後長崎へ。信長からの保護状を得て活動を継続。秀吉によって長崎に追放される。日本キリスト教史の重要な記録『日本史』や『二十六聖人の殉教記録』など書きを残した。長崎で帰天。



5.アレッサンドラ・ヴァリニャーノ

(1539～1606)

イタリア生まれのイエズス会士。巡察師として1578年マカオに、1579年に日本に上陸。3年間滞在し日本の宣教に尽力し、司祭育成の教育機関を充実させた。何回かに渡る日本滞在の後、マカオで帰天。

6.グネッキ・ソルディ・オルガンティー(1533～1609)

イタリア人イエズス会宣教師。1570年天草に到着。フロイスと共に京都での布教活動は30年間。南蛮寺建設に助力、また信長から得た土地に安土セミナリオを建て、院長を務めた。1587年秀吉の禁教令の後は右近と共に小豆島での隠遁生活をし、後九州に移る。再び京都に入洛。二十六聖人殉教の際に切り落とされた信者の耳を、手に押しいたとされる。日本の宣教に半生を捧げ、1609年長崎で帰天。



7.聖ペトロ・バプティスタ(1549～1597)

スペイン人フランシスコ会員。来日前10年間フィリピンで働く。1593年秀吉に謁見し宣教の許可を得て、都で3年余り伝道。都での宣教許され「天使の元后教会」(聖母マリア教会)を建立。サン・フェリペ号事件により京都で捕縛。二十六聖人の一人。



8.ベルナール・プチジャン(1829～1884)

フランス出身。パリ外国宣教会会員として1862年横浜に上陸、翌年長崎へ。1865年、3月17日大浦天主堂での「隠れキリスト教の発見」(信徒発見)の歴史的瞬間に立ち会う。プチジャンによるキリスト教徒発見と、明治政府による一連の弾圧行為の情報が欧米諸国を動かし、日本の宣教に貢献。1884年大浦で帰天。



9.アマトス(エメ)・ビリオン(1843～1932)

フランス出身、パリ外国宣教会宣教師。来日から11年を経た1879年に入洛。8年半を京都での宣教活動に捧げ河原町教会の創設者と言える。その後、萩、奈良で宣教。来日以来一度も日本を出ることなく宣教に捧げ1932年に帰天。



パリミッションの司祭たち/司祭館裏庭にて1900年頃

1866年 フランスからの「都の聖母」東山將軍塚に埋める

1867年 長崎浦上のキリスト教徒百数十人を投獄、外国領事の抗議により釈放(浦上4番崩れ)

1868年 ビリオン神父長崎に上陸

1871年 踏み絵全面禁止。ビリオン神父神戸教会主任

1873年 キリスト教徒の禁教令の廃止。浦上の信徒釈放宣言

1876年 日本教会、南北二大教区に(南担当:プチジャン司教)

1879年 9.ビリオン神父入洛、高倉二条、野村氏の借家に入居。「都の聖母」発掘

1880年 ビリオン神父による初洗礼(高倉二条の聖堂で)

1881年 仮聖堂、問屋町へ移転

1882年 仮聖堂、三条高倉へ移転

1886年 幼きイエズス会のシスターたち4名が入洛

1888年 河原町三条に2,000坪の屋敷購入、教会を建設。この年の受洗者は30余名。日本教会は、北日本・大阪・長崎に分けられ大阪教区担当はミドン司教

1889年 ビリオン神父山口に転任、河原町教会を去る
コンパニオン神父主任司祭着任。7/25 フランシスコ・ザビエル教会定礎式

1890年 ワスロン主任司祭着任。5/1 フランシスコ・ザビエル教会献堂式莊嚴ミサ。知事、市長、フランス大使等も加わり京都駅から祝賀行進

1893年 10.オリエンチス神父主任司祭着任

1902年 幼きイエズス会女子和洋技芸学校開設

1914年 [第一次世界大戦に参戦]

1922年 11.ジュッツ神父主任司祭として着任

[関東大震災]

1923年 ジュピア助任神父着任

1929年 バチカン市国独立国家として成立

1930年 京都布教50周年祝賀大会

1931年 12.ウット神父着任

[満州事変勃発]

1937年 メリノール会宣教師たち入洛

京都教区の誕生(大阪司教区から独立) [日中戦争]

1939年 13.パトリック・バーン初代教区長に着任

[第二次世界大戦勃発]

1940年 14.古屋神父河原町教会着任

1941年 宗教団体法により外国人教区長は辞任。カトリックを日本天主公教団と改める。メリノール会司祭全員監禁、翌年アメリカに送還される [太平洋戦争]

1942年 森五百枝神父着任(翌年召集)

1943年 上田神父着任(翌年召集)

1945年 長崎に原爆投下、浦上天主堂崩壊。古屋神父30日間投獄。8/15 終戦。8/19バーン神父の進駐軍に対する呼びかけで天守公教連盟設置、教会の体制が整えられる [ポツダム宣言受諾]

- 1946年 フェルセッカ神父、スタインバッケン神父着任
- 1948年 3月丸山神父着任。9月ハヤット神父着任。8月西陣教会献堂式
- 1949年 6/5ザビエル「奇跡の聖腕」を迎える岡崎公園でザビエル宣教400年祭祝儀ミサ。「イクトウス」1号発刊
「レジオ・マリエ」高野教会で誕生
- 1950年 バーン司教教皇使節として韓国へ。北朝鮮にて殉教。衣笠・西院教会献堂式 [朝鮮戦争勃発]
- 1951年 古屋義之司教叙階、京都司教区初代司教となる。
丸山神父主任司祭。信徒会「聖親会」を結成
- 1952年 ロザリオ会発足。岡神父着任。6/1聖体行列
- 1954年 北白川・田辺教会献堂式
- 1955年 村上眞理雄神父着任。九条・宇治教会献堂式
- 1956年 高野教会に「子羊会」誕生
- 1959年 浅田・斎木・藤堂三司祭叙階式
- 1962年 10/11 第二バチカン公会議開幕
- 1965年 12/8第二バチカン公会議閉幕。典礼の刷新、対面ミサ始まる。『現代世界憲章発布』。泉神父着任
- 1967年 6/17 旧聖堂とお別れ。6/18 新聖堂に移る
- 1969年 12/20 河原町教会で日本語ミサ始まる。初めての市民クリスマスの集い
- 1970年 ロイヤルホテル起工式
- 1972年 3月パイプオルガンの祝別式。10月カトリック会館の使用が始まる。1月茨木神父着任。2月聖マリア像の除幕式。11/23 新聖堂祝聖式 [沖縄返還]
- 1973年 3月旧聖堂が明治村で復元(ミサ参加者は273名)
村上透磨神父着任
- 1976年 6月聖堂の聖ヨゼフ像の除幕式
9/23田中健一司教叙階
- 1979年 ウォーカソン開始
[マザーテレサ ノーベル平和賞受賞]
- 1980年 2/3 宣教100周年記念ミサ
[1880年2/5初受洗から8,707名が受洗]
- 1981年 ヨハネ・パウロ二世初来日、広島で平和アピール
- 1982年 記念誌「河原町教会 宣教百年の歩み」発刊
- 1987年 9/23 教区50周年記念式典ミサ
- 1997年 京都南部地区東ブロックとして共同司牧に移行。
田中健一司教引退。6/15 大塚喜直司教叙階
《7月号につづく》



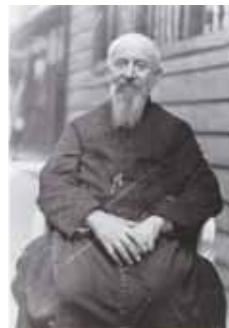
10.オリエンチス神父(1893~1922在任)



11.ジュツツ神父(1922~31在任)



天主堂前にて1921年



12.ウット神父(1931~38在任)



ウット・エルベ両神父と子どもたち



13.パトリック・バーン司教と信徒たち

13.パトリック・バーン (1888~1950)

メリノール会司祭。1937年に大阪教区から独立した京都知牧区の初代教区長。戦後の困窮者に愛の救助活動を行い、宣教と救助に捧げた。ヴァイオリンを弾きオウムを可愛がる温厚な人柄で、人々から信頼された。戦中は高野教会でひっそり暮らし、戦争が終わるや、日本における宣教への貢献は偉大なものであった。1950年北朝鮮で殉教。

「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」
ヨハネによる福音書12・24

記念さるは 愛のいけにえ

洛東ブロック協力司祭 村上 透磨 神父

祝わんか愛の犠牲(いけにえ) 献げ来し感謝の祭儀
堂間にひびくは讃美

50年続けし如く 年重ね さらにいや増せ

献堂50周年を祝うということは、50年この聖堂で、ミサが捧げ続けられたということです。主が語られる命の言葉に、主がさし出されるご自分の体に、主が注がれる愛と靈の恵みに、生かし続けられたということです。

建物を祝うのではありません。そこで祝われた、神様と私たちの出会いを祝ってきたということなのです。ここは神の家、祈りの家、神の恵みと慈しみを讃え、神の救いのみわざを寿ぎ、神に感謝と讃美をささげるのです。ここは、神に献げられた敬虔な場所、神と語らう場所です。

おめでとうございます。

めぐみに啓わされたできごとにひそむ神の計らいに、ともに感謝の祭儀を祝い、うたい続けて50年たちました。

献堂式のことはあまり憶えていません。きっと、まだ帰国していなかったか、ガス中毒で「あちら」に行きかけていたためかもしれません。ただ、古屋司教様に仕えていた父が、人知れず大変だったようなことをもらっていたように思えます。当時のことを知る古屋司教も、父も、関わられた多くの方々は今は天国。もう少し聞いておけばよかったのですが…。

でも、この方は皆、私たちがミサを捧げる毎に、この祭儀に集い、共にミサを捧げておられる様に思われて…ミサはにぎやか。

「いけにえを ここで献げて 50年」

いけにえを献ぐものは けがれなき神の小羊

人間となりたまいたる 永遠の神の独り子

おのが身を捧げ給いし

このパンはキリストの体 この杯はその流されし血(いのち)

出会うのは神の愛なる 献げらるパンと杯

げに我ら神と交わる 天と地もここに結ばる

50年 主との出会いは 年重ぬごとにいや増す

「大いなる 祝福に満つ 神の愛」

大いなる祝福受けて いま我等感謝をささぐ なにごとも
神の計い るるとした歴史を飾る 祝しませ三位の御神
福音を告げんがために日本へ はるばる来たり都へと
神の御国を つたえ來し 聖者ザベリオ

神の愛 救いの御手はのばされて 我等包めば愛を知り
命を得たり おたがいを思いあい めぐみを祈る
出会いたる全ての人が 尊き神の愛を ここでうけて輝け
献げらる神への讃美 堂内に満ちる喜び
記念さるるは 愛の犠牲(いけにえ)



オリエンチス神父在位25周年記念1918.9.4



オリエンチス神父在位25周年記念1918.9.4



1946年着任
スタインバック神父



パリ宣教師会司祭たち1904年設立の和洋技芸学校前で



学生連合会の集い・聖トマス学院にて 1946年

旧聖堂から新聖堂へ 当時を知る信徒の“座談会”を開いて

今年新聖堂建立50周年を迎えるにあたり、当時の様子を知る信徒の“座談会”を開いては、との案が出されました。そこで、5月10日10時から11人が応接室に集い、教会の歴史を垣間見ることのできる思い出や体験してきたこと、また今後の教会のあり方等について、約2時間分かち合うことができました。 [以下要約]



◆ 懐かしい話 など

- ・旧聖堂の献堂式の日は、フランスの大使も来られ、馬車に乗り、知事や市長、たくさんの人々が集い、京都駅から教会まで華々しい行列が行われたそうです。日の出新聞(現京都新聞)に当時の写真を提供しました。旧聖堂は国の重要文化財になりましたが、その頃から京都で目を引く建物でした。
- ・ザビエル来日400年記念式典の時、子供の頃ですが着物を着て、ザビエルの右聖腕の入ったガラス張りのケースを囲み岡崎まで行列をしました。カゴにお花をいれて撒きながら歩いたことを憶えています。6月の暑い日でした。
- ・スタインバッック神父様の頃でした。土曜学校では毎週告解をさせられ、そのために、覚えのために紙に書いていました。一面厳しい神父様で、風邪を引いたと言うと「あなたが帽子をかぶらないからです」と叱られたこともあります。その頃は「罪」ということを考えることが多かったかもしれませんね。
- ・スタインバッック神父様はメリノールの神父様で、私の叔父が朝鮮にいる時、神父様に日本語をお教えしました。
- ・スタインバッック神父様の部屋の中には、本当に何もなく、ただ医薬品の箱が積み上げられていました。とにかく貧しい人、病人のために、信徒と共に動き回っておられました。
- ・スタインバッック神父様とトラックで、青年達は一緒に布教に行きました。土曜学校の頃、味噌などの救援物資を分けるお手伝いもしました。本当に活発に動き回る神父様である一方、いつも祈っておられた姿が印象に残っています。貧しい人の物資援助で同じ人が2度列に並んだことに気づいた人が、そのことを指摘すると、スタインバッック神父様は「あの人は貧しいのです」と、逆に叱られたそうです。
- ・『河原町教会宣教100年の歩み』の作成に、イクトゥスは大役立ちました。歴史の記録は大切だと思います。

・当時は神父様も多くおられましたが、人数も少ない今の時代の神父様方は、いろんな面でとても大変だと思います。

・バーン司教様の思い出もたくさんあります。来日して一度も祖国に帰ることなく、教皇使節として朝鮮にわたり、1950年北朝鮮に引かれしていく時に着の身着のままで、最後は殉教されました。日本の宣教に本当に力を尽くされました。

・子供の時、神父様の言いつけで近所の子ども達を誘いに行きました。そのお一人が大塚司教様で、いつも教会に来られ、進んで侍者をしておられました。

・古い聖堂では、主日のミサは朝から夕にかけて6回ありました。当時はラテン語のミサでした。また両脇に脇祭壇が二つありました。

・新聖堂ができた頃、丸山神父様は地下の5号室に住んでおられましたが、部屋に水がしみて来て、皆で汲み出したこともあります。



・一度古屋司教様が香部屋でお祈りされていた時、それに気づかず他の神父様が鍵をかけてしまい、古屋司教は2時間も香部屋に閉じ込められてしまいました。司教様はその時「どうしたものか…」と思われたそうです。

・パイプオルガンは立派なもので、音楽の好きな古屋司教様の計らいで設置されたものです。妻は司教様に言われて、神戸までオルガンを習いに通い、35年間オルガニストの奉仕をさせていただきました。

・ステンドグラスは献堂式の後、スイスで製作されたものが運ばれて来て、はめ込まれたのです。献堂式の時には、まだ何もありませんでした。

・現在の聖堂の構造から、屋根や音響などにも問題点があると思います。屋根の面積が広く、修理に多額の費用がかかりました。でも、この教会はとても恵まれていると思います。

◆ 教会のこれから に思うこと

- ・聖書朗読を子ども達がしているが、あれは素晴らしいと思います。これからも、ぜひ続けてほしいです。
- ・広報紙でイクトゥスのように信徒の声も聞きたいですね。
- ・ヨゼフ会、マリア会のような拠り所として、ぶどうの会にもたくさん集ってほしいと願っています。さらに信徒同士が交流できる場を考えていきたいですね。
- ・年1回の黙想会などに、男性信徒の参加が少ないので、ぜひ参加してほしいと思います。
- ・楽しい教会にしていきましょう。



なつかしい写真 『河原町教会宣教百年の歩み』より転載



ザビエル聖腕の行列 1949.4



聖体行列の子どもたち



教区長会議 1940年



14.古屋司教叙階式 1951年

旧聖堂受付け 1954年頃
「初めての方はどうぞこちらへ」

旧聖堂内部

河原町教会5月7日評議会議事録要約

司祭団から = ①4/20菅原神父着任 ②5/14・7:00ミサでカトリック教会に受け入れる式、5/21・10:30ミサで幼児洗礼、5/20結婚式ミサ予定 ③7/9・10:30ミサで国本静三神父司祭叙階金祝感謝ミサ予定 ④モンロイ神父7/2~10/2不在予定

復活祭 = ミサ、懇親会共に例年より参加者多数 **洛東ブロック会議** = 検討事項 ①求道者、近隣の人との交流について ②「ラウダート・シ」「高山右近」の分かち合いについて ③9/3ブロック大会について ④平和旬間行事について **新信者のミサ** = 無事終了 **宮津教会献堂120周年記念ミサ** = 5/6記念行事終了

各部会報告 = ①**典礼部** = ①2017年度集会司式者3名、聖体奉仕者10名選任 ②聖週間、復活祭のミサ無事終了 ③鳥取教会から聖歌勉強会の申し入れ ②**財務部** = 4/23例会で維持費未納対策の検討、郵便等で依頼する。③**教育部** = ①**土曜学校**：①4/22授業開始。初聖体の準備 ②4/23初聖体、小2年生1名 ③4/29練成会の下見 ④5/13遠足予定 ②**中高生会**：①4/16復活祭でドリンクサービス担当 ②5/21堅信勉強会 ③**エリの集い**：4/23初聖体パーティーの手伝い終了 ④**信徒養成**：①「主日の福音を読む集い」毎日曜9:30~10:15/301号 ②待降節黙想会12/2・菅原神父指導 ⑤**ブロック合同教育部会**：5/13~14「中高生会の集い」予定。5/14「青年のつどい」予定 ⑥**キリスト研究会**：①4/23例会開催 ②5/14都の聖母奉賛ミサ予定 ⑦**ザビエル訪れ会**：ミサに欠席の高齢信徒の訪問を実施した。④**施設管理部** = ①4/30教会美化デー実施、地下不燃ゴミ処分をしたが一部再処分が必要 ②復活祭アーチは6/3撤去予定 ⑤**広報部** = 教会だより郵送を佐川メール便に変更、実施は6月からの予定

行事予定 = 4ページ行事予定欄に記載

協議事項 = ①**復活祭について**：①2018年度は英語ミサを行う。②保温ポット追加希望 ②**洛東ブロック会議について**：(上記記載の通り) ③**新聖堂建立50周年記念行事**：①明治村旧聖堂「50周年記念ミサ」バスツアーの申し込みは現時点で74名 ②教会だより6・7月号を特別号として発行 ③写真展は6/17までに飾り付けをする。④7/2のオルガンコンサートのチケット販売に協力 ⑤年内完了を目標に聖堂座席クッション張り替え等、教会設備の改善を実施したい。

その他 = ①小教区評議会役員研修会は、役員4名出席予定 ②「いのちへのまなざし」書籍350部到着後、河原町教会信徒に配布予定(一世帯一冊) ③菅原神父が河原町教会滞在曜日は、金曜日午後~火曜日午前中

[門の聖句] 「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28・20)

◇ 2017年6月・7月の行事予定 ◇
(7月は予定です。変更の場合があります)

月	日	曜日	行 事 預 定
6	4	日	聖靈降臨の主日 評議会6月例会 南部地区合同堅信式 14:00
	11	日	三位一体の主日
	17	土	新聖堂建立50周年記念明治村旧聖堂ミサ(バスツアー)
	18	日	キリストの聖体 新聖堂建立50周年感謝ミサ 10:30 祝賀会
	23	金	イエスのみ心
	24	土	洗礼者聖ヨハネの誕生
	25	日	大塚司教靈名[パウロ]のお祝い 10:30 聖ペトロ使徒座への献金
7	29	木	聖ペトロ 聖パウロ使徒
	2	日	評議会7月例会 新聖堂建立記念行事オルガンコンサート 15:00
	9	日	ペトロ国本静三神父祭叙階50周年金祝感謝ミサ
	22	土	洛東ブロック会議(河原町教会)
	30	日	教会美化デー

教会は「羊の囲い」

教会は「羊の囲い」であり、その唯一必要な門はキリストである。また、教会は羊の群れであり、神自身がその牧者となることが予告されている。この群れの羊たちは、人間である牧者たちによって養い導かれているが、しかし自分のいのちを羊たちのために与えたよい牧者であり、牧者たちの頭であるキリスト自身によってたえず導かれ、養われている。



(「第二バチカン公会議 教会憲章」6.から)

新聖堂建立50周年記念行事

J.S.BACH「マタイ受難曲」コンサート開催 2017.3.19 (日)

記念行事の一つとして、バッハの「マタイ受難曲」コンサートが開催されました。聖堂いっぱいの方々が集い、一場神父の挨拶に始まり、約3時間にわたるものでした。マタイ福音書をテーマにした受難曲は四旬節にふさわしく、イエスの受難を黙想することができ、美しい音楽は聖堂に響きわたり聴衆を魅了しました。(編集委員)



合唱:大阪バッハ合唱団 [指揮:畠 儀文]
管弦楽:ザクセン・カンマー・オーケストラ

河原町教会 ミサの時間

日曜日 (主日のミサ)

7:00

10:30

*英語ミサ 12:00 (第2・4週)

月曜日 6:30

火曜日 6:30 18:30

水曜日 6:30 18:30

木曜日 6:30

金曜日 6:30 18:30

土曜日 6:30

18:30 (主日のミサ)

信仰の学びのお知らせ

◇信仰入門講座◇

(1F集会室)

火曜日 10:00 (第4・5・祝休)	モンロイ神父
水曜日 15:00 (祝休)	一場 修 神父
木曜日 19:00 (祝休)	一場 修 神父
金曜日 10:30 (祝休)	一場 修 神父
19:15	村上 透磨 神父

◆菅原友明神父の個人講座をご希望の方は教会事務室にご相談ください。[新]

◇洛東ブロック信徒養成講座◇

【河原町教会】第1土曜日19:30~20:30

菅原 友明神父

【山科教会】未定

【伏見教会】毎火曜日10:00ミサ後~11:30
一場 修神父

【桃山教会】火曜日15:00 菅原 友明神父

◇南部地区信徒養成講座◇[新]

(1F集会室/毎月1回水曜日)

大塚 乾隆神父「典礼を学ぶ」

6月 7日(水) 10:30~11:50

7月 5日(水) 10:30~11:50

◇南部地区信徒養成講座◇

(1F集会室/毎月1回木曜日)

北村 善朗神父「祈りを学ぶ」

6月 1日(木) 14:00

6月 29日(木) 14:00

テキスト:『カトリック教会のカテキズム要約』

◇主日の福音を読む集い◇

(3F・301号室)

毎週日曜日9:30~10:15

※どなたでもお気軽にご参加ください。